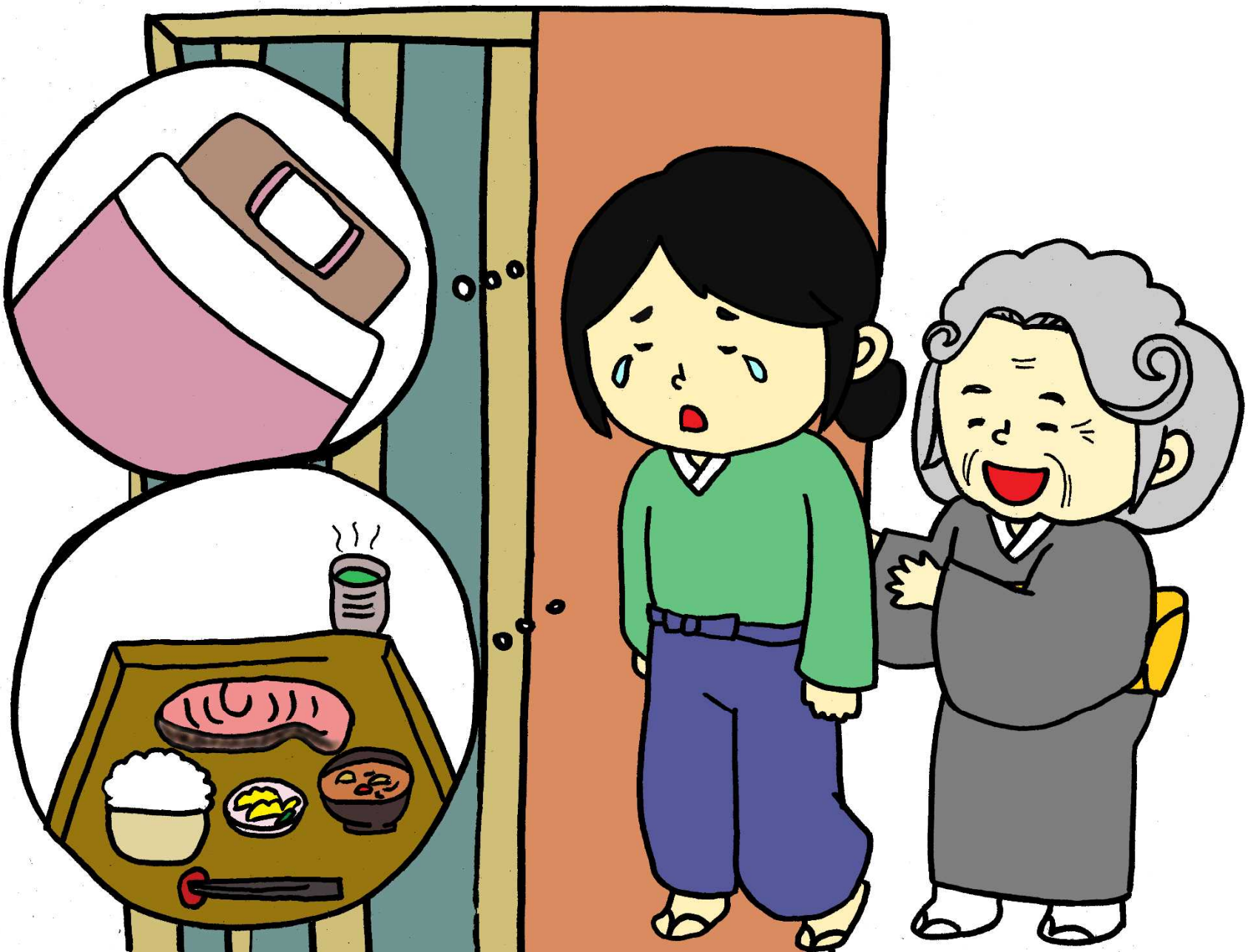
つがるの昔っこ 32（昔話）

猫屋敷②（津軽弁）

国土交通省　東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト ：　やざわ　ゆな
カラーリング：みやかわ　みなみ

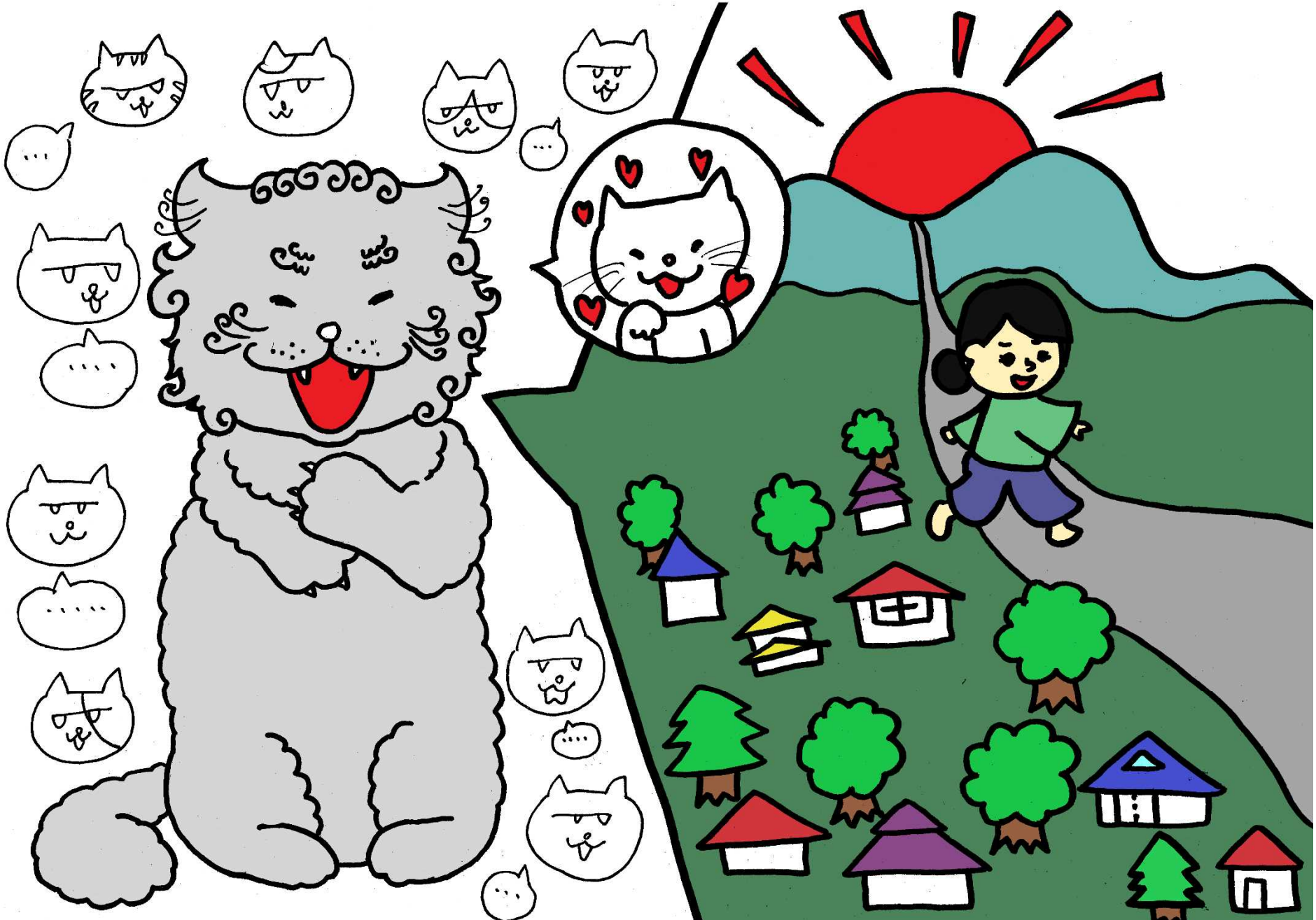
それば見で、婆様『とにかぐ中さ入れへ』てお梅ば中さ入れだど。
婆様、お梅さあったかいまんまば食（か）へで、布団も敷いでけだ。
『さ、ここでゆっくり休んでいげへ』て言（し）て、奥さ行ったど。



　とごろが、その晩（ばげ）、お梅がふと目さましたきゃ、奥の方がら話し声聞けできたど。お梅、目（まなぐ）ばつぶって、又眠る気なたばて、話し声耳さついで、ながなが眠られね。
　とうとう目がさえでしまって、そろらっと起ぎだして、戸こ開げで、話し声のする方さ忍び足で行ってみだど。
　話し声は廊下の突ぎあだりの部屋がら聞けでくる 。

　お梅、耳すまして聞いでらきゃ、中がら
『人間達はみんな乱暴で、猫ばいじめでる。あの娘も、この屋敷さ来たからには、噛み殺してしまうべし！』『そんだ！そんだ！』
　聞いでだお梅、どってんしてまて、戸コ細ーぐ開げで中ば見だきゃ、中ではホレー、黒だの白だの、ブチだのトラだのの猫達ぁジョロラーっといで、寄り合いしてあたど。

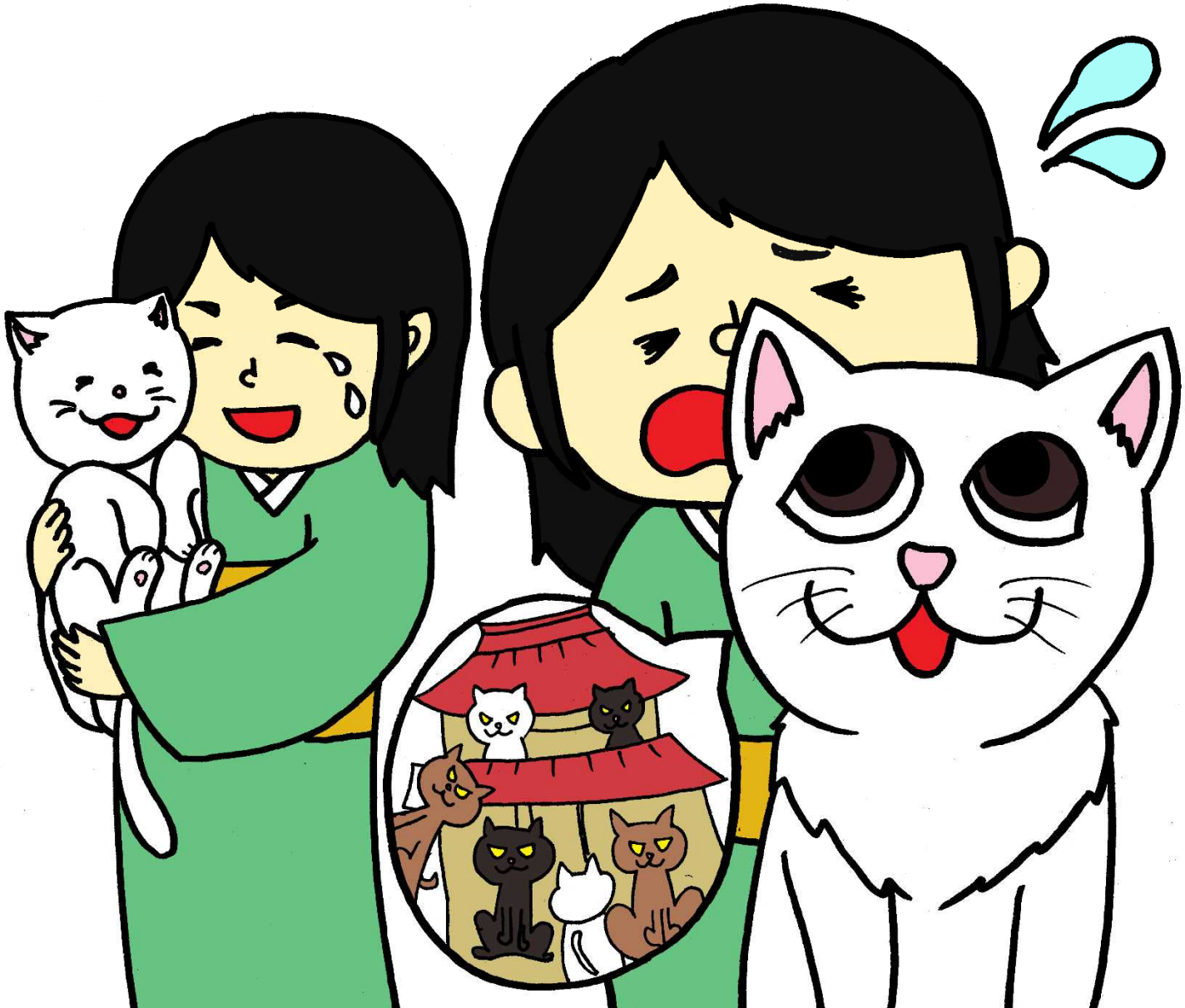
したきゃ一匹の年とった灰色の猫ぁ
『あの娘っこは可愛（めご）がってら猫ば案じで探しに来たんだ。噛み殺したりしねで、夜明げだら帰（もど）してやれ』て言（し）てらど。



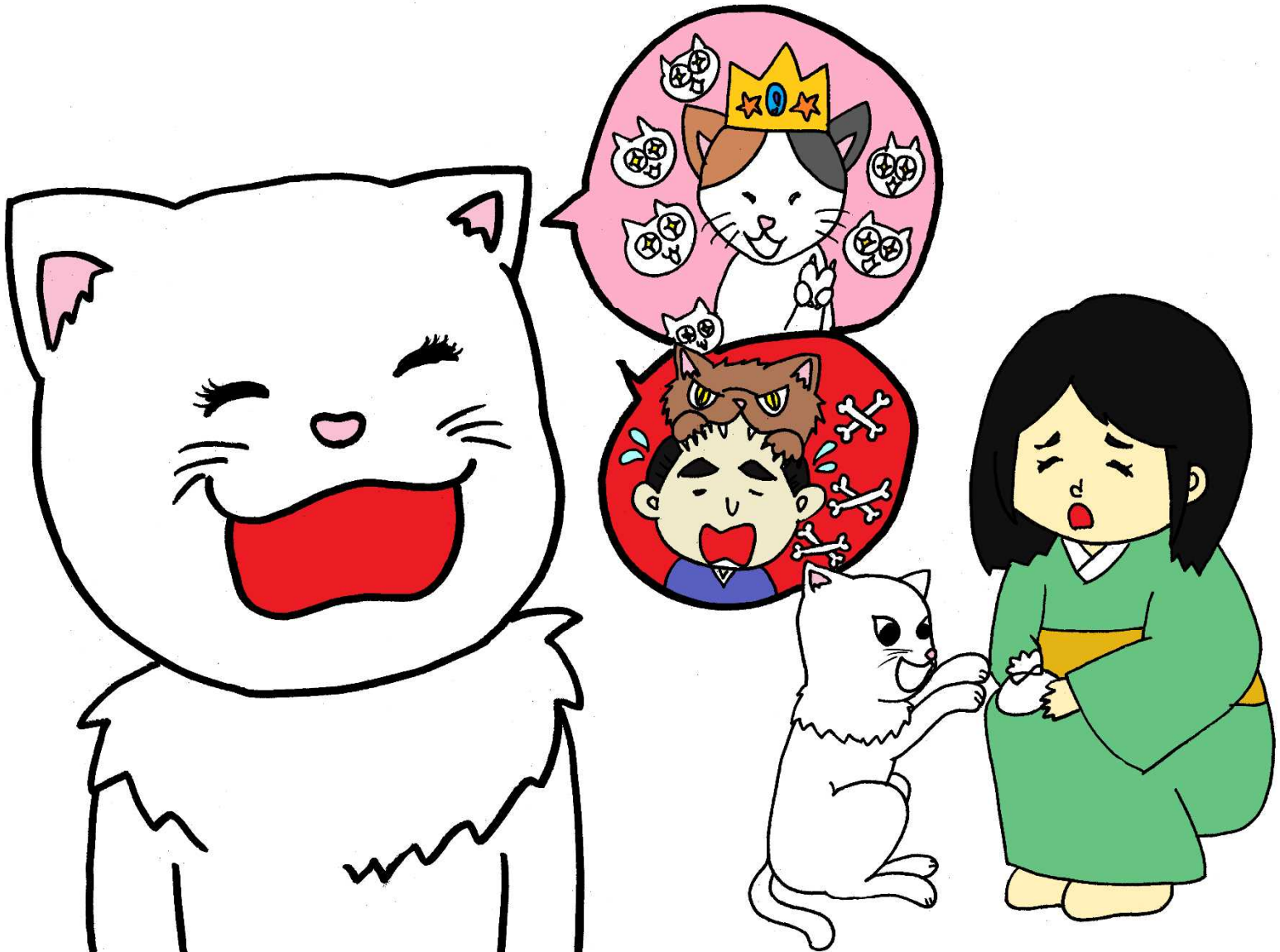
お梅『へ、へば、ここは猫屋敷だ。早（はえ）ぐ逃げねば噛み殺されるがもしらね』て、大急ぎで廊下ば戻ったど。

したきゃ、外さ出る戸口の所（どご）で、一匹の白い猫どばったり会ったど。

　見だきゃ、お梅が探してあった、タマであた。
『タマ、お前（め）、タマでねが！わいん、タマ探したじゃー』てして抱ぎ上げだど。
　タマ、優しぐお梅ば見上げで『よおぐたずねで来てけした。したばて、私ももう歳とってしまったどごで、仲間ど一緒に、ここでくらす事にします』て言（し）た。



『そした事言わねで帰（もど）って来てけろじゃ。お前（め）いねば、私（わ）、淋しくてたまらねんだ。あの宿屋が好ぎでねば、私（わ）、別だ所（どご）で働いでもいい。な、タマ、な...』
『あなたのご恩は決して忘れません。でもお梅さん、ここさ来るのは猫の出世だんです。ここさは、日本中がら選ばれだ猫が来るんです。したばて、人間がらいじめられで、人間を恨んでいる猫もいますから、何をするかわかりません。今のうぢ早ぐ逃げでください』て白い紙包みばけだど。



　お梅、急いで外さ出はたきゃ、わいん、どんだばな。屋敷の前さ、何百匹てす猫ァ、ズラーッと集まってあった。
したきゃ、タマ、ぽんっとお梅の前さ出で、大（で）っただ声で『ニャーオ、ニャーオ、ニャンニャン、ニャオーン』て鳴いだど。

したきゃ、群れの中の一匹の年とった灰色の猫も『ンニャオオオオオン』て鳴いだど。
それば聞いだ猫達ァ、ジャワジャワど動いで道ば開げだど。こうしてお梅、無事に山ば降りる事でぎだど。

つづく